

平成23年第4回（9月）掛川市議会定例会
一 般 質 問 発 言 順 序

- | | | |
|---|-----|-------|
| 1 | 7番 | 鈴木久男君 |
| 2 | 15番 | 鈴木正治君 |
| 3 | 6番 | 栞原通泰君 |
| 4 | 2番 | 榛葉正樹君 |
| 5 | 8番 | 柴田正美君 |
| 6 | 10番 | 草賀章吉君 |
| 7 | 3番 | 川瀬守弘君 |

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	鈴木久男	質問の方式 (一問一答・総括)
------	---	----	------	-----------------

1 沿岸地域への津波対策について (答弁：市長)

- (1) 当市の遠州灘海岸線は宮城県名取海岸と似ているといわれる。専門的知識を持つ有識者を招き、メカニズムを学んだ上、被害想定をする考えは
- (2) この際30年とか、50年先を想定して、整備の基本を定める必要を感じる。国県への要望として、国道 150号を菊川橋両岸の高さまでかさ上げ、さらに市の計画として防災林のかさ上げ補強（残土の処分地のアイデア）に対する考えを伺う
- (3) 大東海岸第一線にある鉄筋平屋建て、4箇所海の家は津波避難棟として活用可能か
- (4) 津波高の予測を、高めのハードルに設定すれば、逆にそこに住む人達や公共施設・事業所には多くの不安を募らせることになる。地価の下落や風評被害により、地域振興の妨げになることも考慮に入れる必要はないか
- (5) 低地の菊川河口や弁財天川の河口に沿って遡上すると思う。押し寄せる波の高さをどの程度と想定するのか
- (6) 避難地や避難路の確保について、地域自主防災会との連携確保の状況は

2 大東・大須賀体育館の今後の対応について (答弁：市長)

- (1) 2カ所を1カ所に統合し、3カ年程度で広域避難機能を持つ施設として、今後3カ年程度で建設したいと伺った。現大東体育館敷地は新たな建設地として考えられるのか
- (2) 新天地を求めた場合、合併特例債を財源とするなら平成26年度完成が前提となる。土地利用許可までの期間に猶予はないと思うが可能なのか
- (3) 当施設は、立地すれば地域にとっても望ましい公共施設といえる。立地にふさわしい候補地の中から、短期間にどのように絞り込み、選定する方針か

3 指定管理者のプロポーザルに向け、「天竜船下り」事故から検証したことは何か (答弁：市長)

- (1) 長期間受委託をしている中で、現場任せで経営効率や採算性を優先して、原点を忘れていたのではないか
- (2) 安全性チェック体制について伺う

(3) マンネリ化防止策について伺う

(4) 営利を目的としない公共施設と営利を目的とする公共施設の利用料金制の考え方について伺う

(5) 今後の事業運営や犠牲者に対する賠償などに係る本市の責任と負担等について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	15	氏名	鈴木 正 治	質問の方式 (一問一答・総括)
------	----	----	--------	-----------------

1 スマートシティ的構想について (答弁：市長)

- (1) 掛川市は、全小中学校に太陽光発電装置を設置しており、さらに太陽光発電の普及率も周辺に比べ高く、海岸部にも風力発電が民間により設置されている。再生可能エネルギー特別措置法も成立し、掛川市はスマートシティ的都市構想を取り入れやすい状況にあるが、今後取り入れる考えがあるか伺う
- (2) 第2エコポリス、新病院用地及び周辺企業用地でのスマートシティ的構想を打ち立てることにより、他市との差別化を図れば、用地取得に興味を示す企業があると思うが市長の考えを伺う
- (3) 太陽光発電設備を公共施設屋上や市所有の遊休地、未利用地など当面予定のない土地、例えば、大須賀区域の農村工業導入地域などへ導入する考えはあるか市長の考えを伺う

2 避難地等の太陽光発電の設置状況について (答弁：市長)

- (1) 全小中学校へ太陽光発電が設置されたが、災害時避難地となった時、停電時発電ができるのか、またどの程度の出力があるのか、夜間は使用できるのか
- (2) 学校以外の避難地での設置状況と使用可能な出力は、どれくらいか伺う

3 東日本大震災への職員派遣状況と被災地から学んだものについて (答弁：市長)

- (1) 今回の東日本大震災を見て、どのようなことを感じ、掛川にどう生かすか、市長の考えを伺う
- (2) 市職員の派遣状況については、いつどこへどの分野の職員を何人派遣したか。また特殊技能者や有資格者を派遣したか。派遣の手続きには、どのようなものがあつたか。またその費用はどの程度であつたか。どこから支払われるのか伺う
- (3) 被災地へ職員を派遣することは、職員の研修としても意義があると思う。職員派遣により得られた情報の分析や検証、掛川市の防災への生かし方を伺う
- (4) 被災した車は莫大な数に上り、被災地では瓦れき置き場のほかにかなりの土地が必要であつたが、被災車輛の置き場は考えているか
- (5) 津波被害を受けたところは松が枯れ、一目瞭然であつた。津波浸水想定域の境界の公共用地に松を植えては、いかがか。市長の考えを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	栗原通泰	質問の方式 (一問一答・総括)
------	---	----	------	-----------------

1 放射性物質の知識教育と健康障害について (答弁：市長・教育長)

- (1) 「放射性物質の性質と健康被害について」正しい知識教育と放射線から身を守るための防御や判断力等を身につけてもらうよう、学校での教育や市民向け勉強会等の取り組みが必要と思うが、市長、教育長の考えを伺う
- (2) 市民の安全安心を確保する観点から、運動場や農地そして農産物飲料水、汚泥など放射性物質の蓄積濃度を継続的に測定していく考えはあるのか、市長に伺う
- (3) 学校給食での食材の「安全検査」を継続性をもって取り組んで行くことが必要と考えるが、教育長の考えを伺う

2 「再生エネルギー特別措置法」と今後の電力エネルギーの「地産地消」について (答弁：市長)

- (1) 当市が求める再生自然エネルギーの発電量を数値目標化し、その目標到達に向けて具体的な政策立案をする考えはあるのか伺う
- (2) 現在市の施設である風力又は太陽光で発電した電力を買い取り制度に活用する考えはあるか伺う
- (3) 市は電力買い取り制度を活用し、公共施設等に太陽光発電の施設を積極的に設置していく考えを持たれているのか伺う
- (4) 売電で得た収入を、環境政策や新産業創造政策、新農業農林政策などに再投資をして、環境日本一に向けての政策展開をしていく考えはあるのか市長に伺う

3 新交通体系について (答弁：市長)

- (1) 「公共交通あり方検討委員会」からの答申内容「地域交通協議会の設置」「運行基準の導入」「市の補助制度の見直し」「デマンド型乗り合いタクシーの社会実験」など重要な検討課題における、今後の取り組みの方針や進め方について、市長の考えを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	榛葉正樹	質問の方式 (一問一答・総括)
------	---	----	------	-----------------

1 情報提供の充実について (答弁：市長)

- (1) 掛川市全域への光ファイバ網の整備、情報格差の是正への施策について伺う
- (2) 市民に情報提供するためのホームページ充実の施策について伺う
- (3) 情報技術の革命により、SNS等を活用した掛川市が目指す「ユビキタスネット社会」とは

2 学童保育について (答弁：市長)

- (1) 放課後児童クラブのガイドラインに対する掛川市の考え方を伺う
- (2) 今後、施設整備が必要とされる児童クラブへの対応を伺う
- (3) 掛川市における学童保育のあり方、ビジョンを伺う

3 スポーツ施設整備について (答弁：市長・教育長)

- (1) これまでの掛川球場整備募金活動の評価はどうか
- (2) 期限内に目標金額達成の見通しは
- (3) 目標金額が現時点で伸び悩む原因は何か。また、それを踏まえての今後の活動内容を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	柴田正美	質問の方式 (一問一答・総括)
------	---	----	------	-----------------

1 浜岡原発は永久停止・廃炉に (答弁：市長)

- (1) 4年前のプルサーマル発電のシンポジウムで、原子力安全・保安院から中部電力に「やらせ質問」を要請、中電も動員をしていた。市長の見解を伺う
- (2) 市長は、保安院の裁定による5号機の再起動に賛成した。今でも妥当と考えるのか
- (3) 浜岡原発は、震源域真上にある。3連動地震や「完新世段丘」の知見から想定される地震と津波に耐えられるとの見解か伺う
- (4) 中電は、砂丘で大丈夫と言っており、裕度向上の「18メートルの防波壁」完了すれば再稼働に賛成するのか再度伺う
- (5) 万一の地震と原発災害を想定した防災計画策定と訓練の実施について伺う
- (6) 広報・安全等交付金で作られた原発礼賛の回覧板の運用について、「検討」を答弁されたが、運用止めるのか見解を伺う
- (7) ヨウ素剤の保管場所と配布方法の再検討を伺う。そして、3万錠では、市民の健康に責任を負えないのでは。島田市や袋井市に見習って追加配備すべきでは
- (8) 想定外の事故は必ず起こりえるし、原発で「想定外」の言い訳は許されない。福島の実績は見通しがつかず、原発技術は本質的に未完成です。東海地震の震源域の真上に位置する浜岡原発は、その存在自体が住民の安全・安心と両立しえず、廃炉しかないのでは見解を伺う
- (9) 再生可能エネルギー法が成立した。掛川市は具体的にどう取り組むのか。「発電分離」についてどのような見解か伺う
- (10) 原子力安全・保安院だけでなく、別の専門家の意見を聞く学習会の開催を求める。原発の情報は、独自収集も必要と前議会答弁している見解を伺う
- (11) 牧之原市は市民意識調査を行い、「停止・廃炉」が6割であった。また、安全が確認できなければ稼働できないとした意見も多かった。掛川市もこうした市民意識調査を行い市民の意向に配慮すべきでは

2 子供医療費無料化の拡大を (答弁：市長)

- (1) 菊川市では、10月1日から中学3年生まで医療費の無料化を拡大する。自己負担は(通院 500円/4回まで・入院なし)「健康医療日本一」を標榜する掛川市、松井市長の公約でもあり、お隣並みの拡大は住民の願いだが、見解を伺う

3 都市計画税の見直しについて

(答弁：市長)

- (1) 6月24日付け「郷土新聞」に都市計画事業に全く縁のない地域の人からの投書が掲載された。市長の見直しには「期待を全く裏切られた思い」と述べている。受益が広くまんべんなく得られていないからである。どう受けとめるのか見解を伺う
- (2) 地方税法 702条は、線引自治体にはっきり課税基準を示している。掛川では、準用しないという答弁だが、それでは何を基準に課税するのか。受益は全域に及ばない
- (3) 三橋委員長の「辺地という形式的基準はおかしい」という発言について、見解を。「100点とかではなく、受益があるか否か」が課税の基準だと明確に述べられている
- (4) 50年も何もやらないのでは、実質、市街化調整区域ではの質問に「いろいろやってきた」と答弁、それなら掛川区域の用途地域外すべてについてどこに何をやってきたか示してほしい。国、県でなく掛川市として、前議会すべてについて示していない
- (5) 市街地化しないところは、線引、非線引関係なく課税しない努力をの質問に、「掛川は線引していないから関係ない」の答弁だが、それでは 702条の法の趣旨は全く活かされません。「牧之原市」は空港地域に課税しようとしたが、市街地化しなければだめと国・県に指導され、都市計画税を廃止した。市長の専権事項だから見解を
- (6) 辺地について、一昨年6月議会は「より受益がある」昨年12月議会では「全く受益がないから見直す」 180度違う見解はおかしくないか、見解を伺う
- (7) 掛川市は、毎年毎年の通達も無視して、都市計画区域全域に課税。市では掛川だけだったのだが、青地農地と用途地域外の森林に続いて白地農地と辺地3地区を課税除外した。市長は、50年にわたる全域課税に問題があったことを認めるか

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	10	氏名	草 賀 章 吉	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input checked="" type="checkbox"/> 総括)
------	----	----	---------	--

1 第一次掛川市総合計画の中間総括について (答弁：市長)

- (1) 広報かけがわに目標達成状況が報告されているが、7分野それぞれに対しどのように総括されているか伺う
- (2) 教育文化、産業経済、協働・広域・行財政分野の未達成が多いがなぜかを伺う

2 市民活動日本一への具体策実施について (答弁：市長)

- (1) 掛川市のテーマコミュニティ（志縁活動）の成熟度は他市と比べてどの程度か伺う
- (2) 大東、大須賀市民交流センターの活用状況と市民の評価はどうか伺う
- (3) 掛川区域へ「市民活動の支援センター」を早期に整備すべきと思うが、どのような考えか伺う

3 サイクリングによる観光振興について (答弁：市長)

- (1) 県が整備したサイクリングロード（総延長 203.7km）の活用状況はいかがか伺う
- (2) 「サイクルツーリズム」を掛川市の観光推進にという動きがあるが、市としてどのような考えを持っているか伺う

4 中学校の教科書選定について (答弁：教育長)

- (1) 中学校における社会科の教科書が注目を浴びているが、掛川市の教科書選定はどのように決められているか伺う
- (2) 教科書選定がなぜ話題となっているか、そのポイントを伺う
- (3) 23年度及び24年度において、掛川市で採用した地理、歴史、公民の教科書の出版社名とその選定理由を伺う

5 職員（公共施設）の応対に対する市民満足度について (答弁：市長)

- (1) 職員の応対に対する市民の満足度はどの程度か伺う。どのように評価確認をしているか
- (2) 市民満足度向上のための対策をどのようにしているか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	川瀬守弘	質問の方式	(一問一答)・総括
------	---	----	------	-------	-----------

1 原発問題について

(答弁：市長)

- (1) 政府、電力会社は、津波対策として「防波壁」をつくるなどすれば、運転を再開して結構と言っている。「防波壁」をつくれれば大津波でも大丈夫というのか。市長の見解を伺う
- (2) 浜岡原発は、東海大地震の想定震源域の真上に建っている。地盤隆起、地殻変動が直下で起これば、無数の配管や装置のかたまりである原発プラントの破壊は免れないと考えるが見解を伺う
- (3) 「想定地震M8.4」は成り立たない。東日本大震災は、地震についての学問的知見の見直しを迫るものとなった。東海・東南海・南海の3連動地震では、M9以上を考えるべきと多くの学者が指摘している。見解を伺う
- (4) 浜岡原発3・4・5号機は、どれも出力100万キロワット以上の巨大原発。5号機は138万キロワットで日本最大。福島原発の46～78万キロワットの3倍の出力を持つ。超巨大原発が事故を起こしたとき、被害は桁違いの深刻さになる。住民の命とふるさとを守るには廃炉しかない。見解を伺う
- (5) 現在の原発という技術と、人間社会は両立しうるのか。原発事故の持つ、他に類をみない「異質の危険」。ひとたび事故が起これば、被害を「空間的」「時間的」「社会的」に限定することができない。この危険をなくす方法はただ一つ、原発そのものをなくす以外にない。見解を伺う
- (6) 莫大な「死の灰」を閉じこめる技術がない。閉じこめられないことは、スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマと3回も経験した。国民・市民の命を守ろうとすれば、一切の原発をなくすしかないと考えるが、見解を伺う
- (7) 原発ゼロの日本、自然エネルギー、再生エネルギーの普及でみんなが安心して暮らせる日本を目指し、立地県、地域から声を上げていくことが、今必要と考えるが市長の見解を伺う

2 東海地震対策について

(答弁：市長)

- (1) 広域避難所、公共施設の耐震化、避難路整備、通学路の整備について伺う
- (2) 家具の転倒防止、ブロック塀の倒壊防止など身近な防災・減災対策について伺う

3 新病院・地域医療について

(答弁：市長)

- (1) 後方支援病院に対して、急性期後の「回復期」「リハビリ病棟」を担ってくれるのか、市民の心配が聞かれる。見解を伺う
- (2) 7：1看護で手厚い看護が提供されるようになった。外来看護師の不足は改善されているのか。途中退職も近年増えていると聞かれるが、実態はどうか
- (3) 病院職員の勤務環境の改善を図ることにより、健康で生きがいを持って、能力を発揮し続けられる医療現場となるよう、取り組んでいくことが必要と思われるが見解を伺う
- (4) 新病院について、非常勤職員の雇用も保障すべきと考えるが見解を伺う